

12月7日(土)14時から

いしきを学ぶ会 part10

石木ダムなんか造ってる場合じゃない！  
**長崎のこれからを  
つくるための  
アイデア大募集**

これからの長崎県に本当に必要なものは何か？  
みんなで考え、話し合い、つくっていきましょう。  
石木ダムなんて、必要ありません。

とき 2019年12月7日(土) 14:00～16:00頃 (13:30開場)

ところ 長崎市民会館 大会議室 (長崎市魚の町5-1)

○パネリスト

魚住 昭三 (弁護士)

中島 康 (子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表)

浅野 翔太郎 (毎日新聞長崎支局 記者)

川尻 瑠美 (長崎民医連事務局 社会保障・反核平和担当)

○コーディネーター

松井 亜芸子 (編集者)

お問い合わせ いしきを学ぶ会 実行委員会 095-884-1007 (森下)

## パネリスト / コーディネーター プロフィール

### 魚住 昭三（うおずみ・しょうぞう）／弁護士

1951年、長崎市生まれ。「石木ダム対策弁護団」所属。他にも、「よみがえれ！有明海」訴訟、玄海原発差止訴訟、長崎原爆訴訟、小島養生所住民訴訟に携わっている。さらには、貧困の問題、労働問題、優生保護法問題、外国人のビザ・就労・難民問題などにも携わり、長崎、および日本社会全体の環境・人権・平和問題の解決に尽力している。

### 中島 康（なかしま・やすし）／子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表

1940年、三重県生まれ。日本各地の山々を歩く登山愛好家。1989年「脊梁の原生林を守る連絡協議会」を設立し、九州山地の原生林の保護運動を始める。間伐などの手入れがなされず放置された杉・ヒノキの人工林が山の本来の生態系を崩していること、それによって山の保水力が低下し、川へ流れ込む水の量が減っていることに着目。山と川とのつながりを取り戻そうと、「コンクリートのダムよりも緑のダム」と提唱し、ダム反対運動にも関わるようになる。1996年「子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会」を設立、後年代表に就任。2012年「立野ダムによらない自然と生活を守る会」を設立、代表就任。上益城郡・山都町での小水力発電プロジェクトにも関わっており、2機試作・試験完了。

### 浅野 翔太郎（あさの・しょうたろう）／毎日新聞長崎支局 記者

1982年、長野県生まれ。2005年、毎日新聞に入社。埼玉、東京、福岡で主に警察・司法取材を担当。2017年から長崎支局記者。2019年から県政担当となり、石木ダム問題を取材。10月に県河川課長が推進派議員の会合で「災害は追い風」と発言した件をスクープした。

### 川尻 瑠美（かわじり・るみ）／長崎県民主医療機関連合会事務局 社会保障・反核平和担当

1969年、長崎市生まれ。2019年7月まで、長崎市内の診療所で理学療法士として勤務。同年8月、長崎民医連事務局に異動となる。石木ダム問題に関わり始めたのは、国の事業認定直後に開かれた学習会に参加した2013年頃から。土地の強制収用が可能となった事実には驚き、いてもたってもいられなくなった。特に2019年7月30日の県庁行動に参加して以降は「いしきを学ぶ会」実行委員として、また、「石木ダム・強制収用を許さない県民ネットワーク」の会員としても街頭での活動などで活躍している。

### 松井亜芸子（まつい・あきこ）／フリーランス編集者・映像ディレクター

1977年、愛知県名古屋市生まれ。2000年に大学卒業後、在京テレビ局でアシスタントディレクターとして勤務。2002年より、写真家事務所でアシスタントとして勤務。2005年よりフリー。ライター、編集者として、雑誌・書籍・広告の制作に携わる。2013～16年、BS局のドキュメンタリー番組のディレクションを担当。その過程で石木ダム問題を知る。2016年、核関連の取材のため長崎市に拠点を構える。2018年秋、東京都民から長崎県民になった。2019年8月より、「石木ダム・強制収用を許さない県民ネットワーク」事務局を務める。